

紙 上 発 表

- ◆ 井 上 博 徳 北海道中学校体育連盟
オホーツク管内中学校体育連盟 調査研究委員
北見市立北中学校

「運動部活動の活性化及び運営のあり方について」

～オホーツク管内中学校の実態調査より～

運動部活動の活性化及び運営のあり方について ～オホーツク管内中学校の実態調査より～

北海道オホーツク管内中学校体育連盟 調査研究委員
北見市立北中学校 井上 博徳

<提案趣旨>

中学校における運動部活動は、学校教育の一環として、スポーツに興味と関心を持つ同好の生徒の自主的、自発的な参加により、顧問の教員をはじめとした関係者の取組や指導の下に運動やスポーツを行うものであり、各学校で多様な活動が行われ、発展を遂げてきた。

現在、中学校で約65%の生徒が参加（平成24年度日本中学校体育連盟調べより）しており、多くの生徒の心身にわたる成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たし、様々な成果をもたらしている。

一方で、少子化に伴う部員数や教員数の減少、指導体制、地域的な諸問題等、様々な課題が多くある。そこで、オホーツク管内における運動部活動の実態を調査し、そこから見える問題点や課題について多面的に分析したい。

1 調査方法

オホーツク管内全中学校（50校）の中体連理事各1名が自校の運動部顧問に聞き取り調査を行う形式で、アンケート調査を行った。

回答数：40 / 50校（80%）

2 オホーツク管内の現状（アンケート結果より）

I 部の設置について

①運動部の設置数（男女が一緒に活動している場合でもそれぞれ別カウント）

男子運動部設置数	女子運動部設置数
153	133

②運動部に所属している生徒数

男子	女子
2107人 / 2830人	1358人 / 2641人
加入率：74.5%	加入率：51.4%

③運動部顧問数（外部指導者は含まない）

男子	女子
290人	121人

④運動部顧問のうち、専門的な指導ができる顧問数

男子	女子
151人／290人	36人／121人
専門割合：52.1%	専門割合：29.8%

⑤1つの運動部の顧問数（外部指導者は含まない）

ア. 1人で指導	13（6%）
イ. 2人で指導	145（69%）
ウ. 3人以上で指導	52（25%）

⑥複数顧問でない理由

ア. 教員数に対して部活動数が多すぎる	5校（12%）
イ. 専門性のある教員がない	0校（0%）
ウ. 部員数が少なく、一人の顧問で十分である	3校（8%）
エ. 複数体制である	32校（80%）

Ⅱ 顧問の意識等について

①運動部指導に対しての「やりがい」

ア. 感じている	155人（42%）
イ. どちらともいえない	158人（43%）
ウ. 感じていない	56人（15%）

②運動部活動の指導目標（回答は2つまで可）

ア. 競技力を向上し、大会で少しでもよい成績を収める。	89（16%）
イ. 将来にわたってスポーツに親しむ態度を育てる。	78（14%）
ウ. 責任感や精神力を育てる。	116（21%）
エ. 協調性や社会性を育てる。	211（38%）
オ. 明るく楽しんで仲間と活動する。	66（11%）

③運動部活動における課題（回答は3つまで可）

ア. 校務が多忙で十分な指導ができない	189（23%）
イ. 教材研究や学級経営の時間が取れない	144（18%）
ウ. 部員数が少ない	99（12%）
エ. 部員数が多すぎる	7（1%）
オ. 部員間の人間関係	50（6%）
カ. 部員との人間関係	12（1%）
キ. 保護者が指導方針に対して理解がない	31（4%）
ク. 保護者の勝利への期待が大きすぎる	25（3%）
ケ. 専門的指導ができてない	132（16%）

コ. 施設設備が十分でない	55 (7%)
サ. 予算が少ない	53 (6%)
シ. その他	23 (3%)

・休日や時間外の指導（超過勤務） ・専門的な知識や競技経験等を持っている方が優遇されている感がある ・金銭管理や事務処理が大変で多忙 ・部員の意識の低さ ・残業ありきの勤務実態 ・教員への心身の負担が大きい ・勝利至上主義的な考え方 ・家族と過ごす時間がない ・指導者（教員）が足りない ・体力的に厳しい ・報酬が少なすぎる ・やりたい人ができない ・外部指導者を活用するシステムが整備されていない 等

Ⅲ 外部指導者の活用について

①外部指導者を活用している運動部活動数

男子運動部	女子運動部
29 (19%)	19 (14%)

②外部指導者に対する期待（回答は2つまで可）

ア. 競技力向上	43 (44%)
イ. 体力向上	0 (0%)
ウ. マナーの向上	5 (5%)
エ. スポーツの楽しみや喜びを与える	12 (12%)
オ. 生徒との一緒に活動	0 (0%)
カ. 生徒の活動意欲の向上	12 (12%)
キ. 顧問の指導力の補完	26 (27%)

③外部指導者を活用しての成果（回答は2つまで可）

ア. 競技力向上	41 (52%)
イ. 体力向上	1 (1%)
ウ. マナーの向上	4 (5%)
エ. 生徒の意欲喚起	18 (23%)
オ. 顧問教員の指導力向上	10 (13%)
カ. 顧問の繁忙期に指導をお願いできる	5 (6%)

④外部指導者を活用しての問題点（回答は2つまで可）

ア. 特になし	35 (58%)
イ. 指導回数が少ない	6 (10%)
ウ. 学校の方針と考え方が違う	9 (15%)
エ. 生徒や保護者との関係	4 (6%)
オ. 事務手続きが煩雑	3 (5%)

カ. その他	4 (6%)
--------	--------

- ・連携の取り方に難しさを感じることもある
- ・勝利至上主義となり、人間教育が十分でない 等

⑤外部指導者を活用していない理由（回答は2つまで可）

ア. 顧問教員の指導体制で十分	135 (45%)
イ. 適任者が見つからない	78 (26%)
ウ. 外部指導者との関係が難しい	39 (13%)
エ. 事務手続きが煩雑	12 (4%)
オ. 生徒や保護者の関係	21 (7%)
カ. その他	15 (5%)

- ・必要性を全く感じない
- ・外部指導者との意見の食い違いが大きく、負の要素が多い気がする
- ・指導観の食い違いが大きい
- ・システム自体がまだ教員が指導者という形になっており、外部指導者主導のシステムになっていない
- ・学校にそういう雰囲気がない
- ・学校の方針として認められていない
- ・活用できるような学校体制になっていない（金銭面、選定等）
- ・そこまでしてやる必要はない
- ・活用しようにも、募集や希望者登録のシステムが無い
- ・時間が合わない 等

3 今後の課題と展望（まとめ）

中学校の部活動は、学校教育の一環として位置づけられている。体力や競技力、技能の向上を図るだけでなく、様々な活動を通して、人間形成の場として部活動が果たしてきた役割は非常に大きい。

近年、オホーツク管内は生徒数の減少に伴い、部員数が減少しており、休部や廃部になる部活動数が増加傾向にある。また、生徒のニーズに応えられない等の状況から、地域スポーツクラブ等での活動を優先する生徒も出てきている。

今回の調査より、専門的な指導のできる顧問は45%程度で、運動部顧問の半数以上はその運動経験がなく、実技の専門的な指導力不足が苦慮している状況がみられる。また、全体的に部活動指導のために教材研究や学級経営等の時間が十分に取れないことから、運動部活動に係る諸問題を検討する校内組織体制の整備、そして教員の心身への負担が大きいことから、過重な活動や過大な期待等に伴う多忙化や負担感の減少が課題として挙げられる。外部指導者に対しては、生徒の競技力向上や顧問教員の指導力の補完に期待していることが大きい。活用している半数で競技力向上の成果を実感している。しかし、活用状況は17%と低い。また、外部指導者との連携も課題であるということも挙げられている。現状、外部指導者を活用しづらい学校体制が多いことから、早急によりよい外部指導者活用のシステム整備を図る必要がある。ただ、顧問教員同士の研修会や外部講師を招聘しての研修会等を積極的に計画し、指導力を高める取り組み、そして魅力ある部活動にしていく取り組みが必要であると考えられる。